稚大谷高サッカー部全道制覇

18 ― U フットサル 今夏初の全国出場

小西監督と選手歓喜の涙

「やった！全国だ！」。稚内大谷高校サッカー部（菅原直人主将、部員22人）が18、19日に函館市で開かれた全道U―18フットサル選手権大会（北海道サッカー協会主催）で見事優勝を果たし、同部初の全国大会出場を決めた。管内の高校でも初めて。菅原主将は「この大会に向けて練習に励み、練習通りに戦術が決まった場面もあった。ここで更に気を引き締めて全国に向かいたい」と喜ぶと共に、冷静に全国を見据えた。（川村竜也）

初の全国出場を決めた稚大谷サッカー部

全道大会には道内14地区を勝ち抜いた18チームが出場。予選リーグと決勝トーナメント。予選はA～Fグループ（1グループ3チーム）に分かれ稚大谷は科学大高（札幌）に2対3で敗れたが、北見北斗高に7対2で快勝し1勝1敗。

決勝は各グループの1位と、全グループの2位6チームの中での上位2チーム（得失点などの成績で決定）が条件。稚大谷は2位通過で決勝へ進出した。

1回戦の北照高を5対2で破ると、準決勝の旭大高には2対1で勝利し、決勝へ駒を進めた。

決勝は予選リーグで敗退した科学大高との再戦。1点を奪われて前半を終える苦しい展開。ハーフタイムの円陣で互いを鼓舞。「練習通りの動きをしよう」と臨んだ後半2分、前線でボールを受取った齋藤から出たパスを小野がダイレクトシュートを決めて同点。その後も互いに譲らずPK戦にもつれ込んだ。

後攻の稚大谷は菅原主将がまず1本を決め、5対5で迎えた6本目、相手選手のシュートが枠を外れ、次を決めれば勝利の場面。志田のシュートがゴールネットを揺らすと同時に歓喜のガッツポーズ。初優勝に小西優樹監督や選手らは嬉し涙がこぼれた。

小西監督は今大会の前に、選手の精神面を支えようと夢叶新聞（ゆめかなう新聞）を発行して配布。見出しには「稚内大谷が全国決めた！」。目標を達成するイメージを予め浮かべて祝福し最高の未来を引き寄せようという〝予祝〟に取組んだ。小西監督は「選手が懸命に走り抜き、その通りの結果に繋がった。どの試合も良い内容だった。学校をはじめ地域の方々の多大なサポートに感謝しています」と話していた。

なお、全国大会は7月30日～8月2日か、8月6～9日に開かれることになっている。会場は未定。

全道大会で優勝

フットサル 大谷高サッカー部 決勝戦でPK戦を制す

第31回全道U―18フットサル選手権大会兼JFA第7回全日本フットサル選手権大会北海道代表決定戦（18、19日函館）に宗谷地区代表として出場した大谷高サッカー部（菅原直人主将）が並居る強豪を退け初優勝し、今年8月京都で開かれる全国大会の切符を手にした。

フットサル全道大会で優勝した大谷高サッカー部

全道大会予選ではグループリーグで2位だったが、ワイルドカードで決勝トーナメント戦に進出した。

決勝トーナメントでは、1回戦の北照高（小樽）、準決勝の旭川大学高に勝利し、決勝戦では予選で惜敗した科学大学高（札幌）と対戦。両者ともに一歩も譲らぬ熱戦の末、1対1で前後半を終え、PK戦の末、大谷高が6～5で優勝した。

大会を振り返り菅原主将は「目標だった全道優勝を果たすことができ嬉しい。チームを支えてくれた地域の人たちに感謝し、全国でも勝てるチームに仕上げて行きたい」と喜びと次のステップに向かっての目標を語った。

朗報を聞いた山下校長は「全国規模の大会出場は平成元年の野球部以来、31年ぶりのことで大変嬉しい。積み重ねの大切さを胸に、大会に向けて精進してほしい」とエールを送っていた。